

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

道化役者 Robert Armin と宮廷道化師 William Sommers

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2023-03-23 キーワード (Ja): シェイクスピア, 道化, 役者, ロバート・アーミン, ウィリアム・ソマーズ キーワード (En): 作成者: スミザース, 理恵 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00008065

道化役者 Robert Armin と宮廷道化師 William Sommers

スミザース 理恵

要 旨

Shakespeare時代の道化役者Robert Arminが舞台上で演じた宮廷道化師に、実在した宮廷道化師の影響を読み取る。役者兼作家であったArminが残した道化研究書*Foole upon Foole* (1600)から、実在した道化師たちに関するArminの知識と理解を明らかにし、彼がそれを役作りにかに反映させ、舞台上で宮廷道化師たちを演じていたのかについて論考する。特に、*Foole upon Foole*で紹介されている道化師たちの中でも、当時最も有名であったHenry VIIIの宮廷道化師William Sommersに焦点を当て、彼とArminの演じた宮廷道化師との類似性と、彼からの影響を炙り出す。さらに、エリザベス朝の観客たちが、当時、実際の宮廷道化師たちについてどのような知識を持ちながら、Globe座の舞台上に現れたArmin演じる宮廷道化師を観劇し、受容していたのかについても考察する。

キーワード：シェイクスピア、道化、役者、ロバート・アーミン、ウィリアム・ソマーズ

序

Shakespeareとともに活躍した道化役者Robert Armin (1568-1615) は、*As You Like It*のTouchstoneや、*Twelfth Night*のFeste、*King Lear*のFoolといった宮廷道化師を舞台上で演じたと考えられている。彼が演じたこれらの宮廷道化師たちは、Arminのような道化役者とは異なり、王族や貴族に寄生し、宮廷や貴族社会で拘束された生活を送る特別な存在であった。¹⁾しかし、David Wiles²⁾などによる道化研究や、Andrew Gurr³⁾をはじめとする役者研究などにおいては、ArminやArminの演じた道化たちは、同時代の道化役者、Richard Tarlton (-1588)やWilliam Kemp (1560-1603)との比較や接点に焦点を当てて論じられることが多い。Tarltonは、宮廷道化師としてElizabeth Iから大変気に入られ宮廷に出入りしていたものの、舞台道化として国民的人気を博した人物である。演劇に登場した彼は、宮廷と一般の社会を往来した初めての道化師である。作者不明の笑話集*Tarlton's Jest* (1844)には、TarltonがArminを気に入り養子にしたという逸話があり、彼らに何らかの接点があったことは間違いない。⁴⁾また、エンターテイナーとして劇場や公衆の場に見出したKempは、空間的にも経済的にも自由な道化役者であった。Arminの入団直前まで宮内大臣一

座に所属し、同時代に活躍していた Kemp を Armin が意識していなかったはずはない。しかし、宮廷内に居を構えず自活できた Tarlton や、ソロ・コメディアンとして人気を博していた Kemp の存在は、もはや宮廷や貴族に寄生する宮廷道化師やお抱え道化師ではなく、経済的にも空間的にも自立したプロの道化役者であったと言える。彼らは、Armin が舞台で演じた宮廷道化師たちとは根本的に異なる存在であったのである。宮廷道化師たちを舞台で演じるに当たり、Armin は Tarlton や Kemp ではなく、むしろ実在した宮廷道化師たちを参考にして役作りをした可能性が高いと考える。実際に、役者兼作家であった Armin は、実在した宮廷道化師についての知識を持っていたことを証明する資料が残っている。Armin は、演劇やパンフレット、道化研究書、宗教書の序文などを執筆した作家であったが、彼の著書 *Foole upon Foole* (1600) は、当時実在したと考えられる道化師たちについての知識を存分に披露している。この *Foole upon Foole* に記録された実在した道化師たちに関する Armin の知識や理解は、これまであまり注目されてきていない。Armin は自身が宮廷道化師たちを舞台で演じた際、彼の著書に記されている宮廷道化師たちについての知識や理解を反映させたはずである。特に、*Foole upon Foole* で紹介されている道化師の中でも、Henry VIII の宮廷道化師 William Sommers⁵⁾ は当時最も有名な宮廷道化師であった。本稿では、特にこの Sommers の存在に焦点を当て、彼と Armin の演じた宮廷道化師との類似性と、彼からの影響を明らかにする。さらに、エリザベス朝の観客たちが、当時、実際の宮廷道化師たちについてどのような知識を持ちながら、Globe 座の舞台に現れた Armin 演じる宮廷道化師を観劇し、受容していたのかについても考察する。

1. Armin の実在の道化師に関する知識

Armin の著書である *Foole upon Foole* には、チューダー朝に実在したと考えられる六人の道化師たちが紹介されている。各章が、“A flat Foole” “A lean Foole” “A merry Foole” “A fatt Foole” “A cleane Foole” “A verrie Foole” とタイトルを付けられており、それぞれの道化師たちについての逸話や外見、特徴が語られている。“A flat Foole” では、Lincoln の Sir William Hollis に寄生した Jack Oates という道化師、“A fat Foole” では、スコットランド王（名前は不明）の宮廷道化師 Jemy Camber、“A lean Foole” では Sherwood の森に住む紳士が所有した Leanard と呼ばれる道化、 “A cleane Foole” では Worcestershire に住む Jack Miller と呼ばれる道化、“A merry Foole” では、Henry VIII の宮廷道化師 Will Sommers、そして、“A verrie Foole” では、ロンドンで John of the Hospital と呼ばれた道化師が紹介されている。これら六人の中には、Armin が直接知っていた道化師もいれば、彼が間接的に聞いて知っただけの道化師もいると記録されている。*Foole upon Foole* は、Armin が実際の道化師について関心を持ち、彼らについての知識と理解を深めていたことや、道化役者として彼らに影響を

受けていたことを明らかに示している。それぞれの章では、六人の道化たちの出身地や、逸話、宮廷や貴族に雇われるまでの経緯、肉体的特徴や、衣服、衣装、冗談の例、彼らが置かれていた状況などが語られている。Armin は、“artificial fool” と “natural fool” の定義を定め、彼らの性質を以下のように分析している。

Here you haue heard the difference twixt a Flat foole naturall, and a Flat foole artificiall, one that had his kinde, and the other who foolishly followed his owne minde: on which two is written this Rime.

Naturall Fooles, are prone to selfe conceite:
Fooles artificiall, with their wits lay waite
To make themselues fooles, likeing the disguyes,
To feede their owne mindes, and the gazers eyes.⁶⁾

Armin が語る六人の道化師たちは皆、程度の違いはあるものの本質に “natural fool” としての特質を備えている。しかしながら、*Foole upon Foole* で描かれた道化師たちを分析した Roberta Mullini は、“since nearly all of his six characters, in spite of being labelled as natural because suffering from weak brains and mental disorders, show certain signs of wit.”⁷⁾ と主張している。実際、“natural fool” と “artificial fool” の線引きは難しく、Armin の定義においても、身体的かつ精神的な両面での能力などについてはっきりとは定められていない。Sussex 大学の Center for Early Modern and Medieval Studies の研究は、当時の法律上 “natural fools” という語は “idiots” という同義語でも捉えられており、その定義が現在とは異なることを指摘している。⁸⁾ 1534年に出版された Sir Anthony Fitzherbart の法律書 *New Natura Brevium* には次のように記されている。

he who shall be said to be a sot and idiot from his birth, is such a person, who cannot accompt or number twenty pence, nor can tell who was his father, or mother, nor how old he is, etc., so as it may appear, that he hath no understanding of reason what shall be for his profit, or what for his losse: but if he have such understanding, that he know and understand his letters, and to read by teaching or information of another man, then it seemeth he is not a sot, nor a naturall idiot.⁹⁾

この定義は、1640年以降まで法律ハンドブックに繰り返し引用されていたとされており、初期近代における “foolishness” や “idiot” “sot” といった言葉が、医学的、心理学的根拠を基に定

義された語ではなく、法的には経済的能力や生活力がその定義と深く関連していることが明らかである。Armin の *Foole upon Foole* に登場する John of the Hospital は、Christ's Hospital に居住した道化師であった。Christ's Hospital は当時、十代に入るまでの生活保護が必要な幼児を養育するための施設であった。Armin はこの John of the Hospital について直接よく知っていると言っており、*Foole upon Foole* だけでなく、その改訂版 *A Nest of Ninnies* (1608) と自作戯 *The History of The Two Maids of More-clacke* (1609) にも登場させている。Sandra Dalhberg と Peter Greenfield の調査は、John は本来子どもが収容されるこの施設で、43歳で亡くなるまで暮らしていた実在の人物 John Smith であるということを示している。¹⁰⁾ Armin は、John について、彼が子どもの頃から Blind Alice という名前の盲目の女性を導いて Christ Church に通っており、彼女が死んだ後は Christ's Hospital に引き取られたと説明している。¹¹⁾ 愚かさや経済的能力の関連性については、Armin の John についての記録からも読み取ることができる。

John was of this humour, aske him what his coate cost him, he woud say a groate: what his cap, band or shirt cost, all was a groat: aske what his beard cost, and still a groat.¹²⁾

彼が全ての物の値段を “a groat”、つまり4ペンス銀貨と答える John が、この後実際に “one groat” でブーツを取引したエピソードもつけ加えられている。John は教会で葬儀の際や結婚儀式の際に鐘をつく仕事などもしていたと書かれているが、その仕事に対する賃金の支払いがあったということは一切記されておらず、聖職者からの施しを受けていたと記されている。この John は、宮廷道化師ではなくロンドンに実際にいた道化的人物であり、直接 Armin が知っていた人物として描かれている。Armin の叙述からは、John の生活が Armin だけではなく、ロンドンに住む人々の目にもとまる場所で営まれていたことが読み取れる。

Armin はこの John を “This innocent Ideot”¹³⁾ として紹介しているが、一方で、John には文字を読む能力はあった様子も描いている。彼が、いつも参列していた S. Paules Church の礼拝で司教が説教をしない日には、少年たちに囲まれて自分で教会の角に立ち、よだれ掛けと聖書を持って、それを読んでいたと Armin は語っている。盲目の女性を導いて Christe Church にも通っていた John は説教を聞くことを好み、ペテロやパウロ、コリント人への手紙などについて教えを解くこともできたと Armin は説明している。この John の姿は Armin の最も有名な肖像画にも見ることができる。Armin 自身がこの John of the Hospital を自作劇 *Two Maids of More-clacke* で演じた際の肖像画である。〈図1〉¹⁴⁾ よだれ掛けを持ち、腰にはインクホーンを下げた Armin は、彼が4ペンス (a groat) だと答えたコートを纏っている。



<図1> The title page of Armin's play, *History of the Two Maids of More-clacke* (1609)



<図2> Portrait of Will Sommers by Francis Delaram (1615-24)

Armin の肖像画は、宮廷道化師 Will Sommers を彷彿とさせる。二人の類似性は Shakespeare と John Fletcher による *Henry VIII* の冒頭にも読み取ることができる。*Henry VIII* の Prologue では、“a fellow/ In a long motley coat guarded with yellow” (*Henry VIII*, Prologue. 15-16)¹⁵⁾ が登場しないことを観客に知らせるための台詞がある。John Southworth は *Henry VIII* での Fool の不在は、Armin の引退が原因であると説明している。¹⁶⁾ 黄色の縁飾りされた長いコートを着た道化とは、Sommers と同時に Armin の姿を言い表した台詞であると考えられる。道化の不在が告げられるこの台詞では、Sommers と Armin がダブルとなり、彼らの類似性が示唆されている。実際、その衣装は、Armin の *The History of The Two Maids of More-clacke* の表紙に印刷された Armin の肖像を彷彿とさせる。斑模様には見えない衣装を纏い、ロバの耳や鈴、鶏の鶏冠の飾りのついた帽子、腹話術に使うような道化の笏丈などは全く描かれていない。これらの肖像画からは、彼らが道化であることが一見わからないほどである。両者とも長いコートを纏い、腰から布を下げ、ホーンを持っている様子が描かれている。Sommers の腰には道化帽子が下げられている。一方、アーミンは、よだれ掛けのようなハンカチを腰から下げている。どちらの肖像画にも、知的欠如を示す道化の象徴が描き入れられているものの、典型的道化の象徴として描かれていない。*Foole upon Foole* において Sommers に金銭的援助を求めて宮廷を訪れた Sommers の叔父に Sommers は自らの長いコートを着せて王に会わせたというエピソードを Armin は記している。Armin は Sommers が長いコートを纏っていたことを確実に知っており、自身も Sommers と同じスタイルのコートを

着ていたのである。Sommers は首から肩にかけて、わずかの肉体的障害を持っていたということについても Southworth は言及している。¹⁷⁾ Armin は小人のように身長が低かったと言われており、肉体的な欠如故に自らを“natural fool”として捉えていたと考えられている。¹⁸⁾

Sommers の知的能力に関しては、先に述べた John of the Hospital と同様に、金銭感覚の欠如があるのは明らかである。衣装を始めとする物品が Sommers に買い与えられたという王室手元金の記録はたくさん残っているものの、給料として直接 Sommers に金銭を渡したという記録は全く無い。金銭管理をしていなかった、あるいは出来なかったことから、“natural fool”や“innocent”と呼ばれる道化師として扱われていたと考えられる。Sommers には、金銭管理能力は無かったと思われるが、知的な Henry VIII と一緒に韻を踏んで詩を楽しむことができた Sommers は言葉遊びには長けていたと記録されている。例えば、Southworth は、王がお金を必要とした時に、“Auditours”、“Surveighours”、“Receivwers”が全部自分のものにしてしまうからお金が無いのだと言うところを、“Frauditors”、“Conveighers”、“Deceivers”という語に置き換えて冗談を言ったという記録が残っていることなどの例を挙げ、Sommers の道化技術は、言葉に拠るものであり、定期的にお披露目されていた芸は“mock combat”であったと断言している。¹⁹⁾ ここにも言葉遊びを得意とした Armin の特徴と Sommers の類似性を見ることができる。

2. Armin と Armin が演じた宮廷道化師たち

Armin が演じた Shakespeare の宮廷道化は、一般的に *As You Like It* の Touchstone、*Twelfth Night* の Feste、*King Lear* の Fool と考えられている。彼らは皆、劇前半で不幸な出来事に出会う主人公たちに寄り添い、その主人公とともに運命を共有する登場人物たちである。また彼らは、宮廷道化ではあるものの、宮廷を出てさまよう運命を辿る。Touchstone は Rosalind と Celia と共にアーデンの森を彷徨い、Feste は Olivia の父親のお抱え道化であったが、“the Lady Olivia has no folly, she will keep no fool,” (*Twelfth Night*, 3.1.31-32) と宣言し、屋敷から出て放浪している。そして、*Lear* の Fool は老王と嵐の荒野をさまよう運命を辿る。彼らのように、*Foole upon Foole* に登場する道化師たちも、社会的弱者に寄り添う存在として語られている。先に紹介した盲目の女性を導いて教会にやってくる John もそうであるが、Sommers も “hee was a poore mans friend, and helpt the widow often”²⁰⁾ と紹介されている。Armin は、道化たちが社会的弱者その者でありながらも、彼らが慈善の心を持っていたことを強調して描いている。Sommers については、宮廷の入り口に集まる貧しい人々に Henry VIII からもらったお金を配っていたという逸話も紹介されている。

Armin にとって、彼らの慈善行為は道化役者としての関心の対象であっただけではなく、個

人としての倫理観や宗教感とも深く関わっていたと考えられる。Dalhberg と Greenfield による調査は、金細工師組合にとって貧困者への配慮は最大の関心であったことを明らかにしている。1572年から1610年の間、イングランドでは増加する貧困者の数を抑えるために七つの法令が試行されている。1611年には金細工師がロンドン市長となっており、貧困者救済のための慈善イベントも主催し、行っている。金細工師として徒弟を修了後、生涯、金細工師組合に所属し、宗教書の序文も書いていた Armin は、貧困者のための慈善活動が身近なものであり、自活能力が“foolishness”と同じ意味を帯びていた時代では、なおさら道化役者として貧困を無視できない重要な問題として捉えていたにちがいない。

このような視点から Feste、Touchstone、Lear の Fool の台詞と役割に注目すると、新たな気づきが生まれる。例えば Sir Toby が Feste に対して “there is sixpence for you.” (*Twelfth Night*, 2.3.30)²¹⁾ と言ったすぐ後に、Sir Andrew が “There’s a testril of me, too” (*Twelfth Night*, 2.3.32) と続ける場面は注目に値する。彼らは、同じ6ペンスを異なる言葉で伝えた後に Feste に渡している。Feste にお金を数える能力がないために、二人はわざわざその数字を伝えてから渡していると考えられるのではないだろうか。また Viola が Feste に心付けを渡した際、Feste は “Would not a pair of these [coins] have bred, sir?” (*Twelfth Night*, 3.3.48) という質問をしている。「これで子供が作れるか?」「パンを買えるか?」という二重の意味でお金の価値を確認しているのである。宮廷道化として、貴族に寄生した生活をしており、Sommers のように “mock combat” を得意とする Feste は自らを “corrupter of words” (*Twelfth Night*, 3.1.34-35) と呼び、言葉の二面性を捉えた言葉遊びで、兄の死に悲しむ Olivia を励まし喜劇の筋に Olivia を参加させる役割を担っている。Feste を嫌がり馬鹿にする Malvolio に対し、Olivia が “There is no slander/ in an allowed fool,” (*Twelfth Night*, 1.5.88-89) と言ってかばうことから、Olivia が Feste を特別な存在として受け入れていることが分かる。*As You Like It* においても、Touchstone の金銭感覚の無さが読み取れる。Celia と Rosalind が、一緒にアーデンの森をさまよい歩き、疲れた果て、Celia が Rosalind か Touchstone のどちらかでいいから、金貨で Corin から食べ物を買ってきてほしいと頼む 2幕 4場である。Touchstone は突然、Corin を “you clown!” (*As You Like It*, 2.4.62)²²⁾ と呼び止めるが、それを Rosalind はすぐに “Peace fool, he’s not thy kinsman.” (*As You Like It* 2.4.63) と遮る。Rosalind は、羊飼いの Corin よりも話が通じない人物として Touchstone を邪険に扱い、介入の余地を与えないのである。Rosalind は手早く Corin と交渉し、食べ物だけではなく、土地売買の契約交渉までしてしまうこの場面で、Touchstone は何の能力も発揮することができないのである。しかし、彼自身は機知に富んだ台詞で、会話の相手を感じさせてしまう話術を持っており、Feste と同様に賢い道化として賢者のような哲学をさらりと saying のける。

TOUCHSTONE. I do now remember saying: 'The fool doth think he is wise, but the wise-man knows himself to be a fool.' (*As You Like It*, 5.1.30-31)

Touchstoneはその名の通り、他の登場人物達の賢さを試す試金石のような役割も持っているのである。同じように、賢い道化師である Lear の Fool の台詞にも、Touchstone の台詞に読み取れる賢者のような助言が散見される。

FOOL. Mark it, nuncle:

Have more than thou showest,
Speak less than thou knowest,
Lend less than thou owest,
Learn more than thou trowest,
Leave thy drink and why whore
And keep in-a-door,
And thou shalt have more
Than two tens to a score. (*King Lear*, 1.4.115-125)²³⁾

脚韻を踏みながら軽快に話されるこの Fool の台詞は、真実を言い当てながら、頑固な Lear の価値観の反転を図るために情け容赦なく Lear に投げつけられる。しかし、Feste や Touchstone とは異なり、Lear の Fool は、明らかに10が2つで20になるという計算を理解していることが分かる。H.F. Lippincott は Lear の Fool の原型が Sommers ではなく1603年に James I とともにスコットランドからやってきたイングランド最後の宮廷道化師 Archibald Armstrong (通称 Archee Armstrong) である可能性を指摘している。²⁴⁾ Armstrong は Sommers のように誰もから愛された宮廷道化ではなく、むしろ、全く反対の性質であった。わがままで自惚れ屋で、貪欲、自身の財布を肥やす術に長けていたと言われている。Lear の Fool には確かに Armstrong のような王に横柄な態度で揶揄するような台詞があり、確かな金銭感覚も読み取れる。1606年に James I の御前でも演じられた *King Lear* に、Armin は James I のもとで活躍していた Armstrong の一面を取り入れた可能性は高い。しかし、Lear とともに嵐の中をさまよひ、3幕6場で狂気に取り憑かれた Lear を支えながら退場し、いつの間にか舞台から姿を消す Fool からは、間違いなく、王への愛や慈悲、または憐れみが感じられる。完全に正気を失った Lear を支えて退場していく Fool を、Armin は Armstrong よりもむしろ、Henry VIII に最後まで寄り添った Sommers を重ね合わせて演じたのではないだろうか。

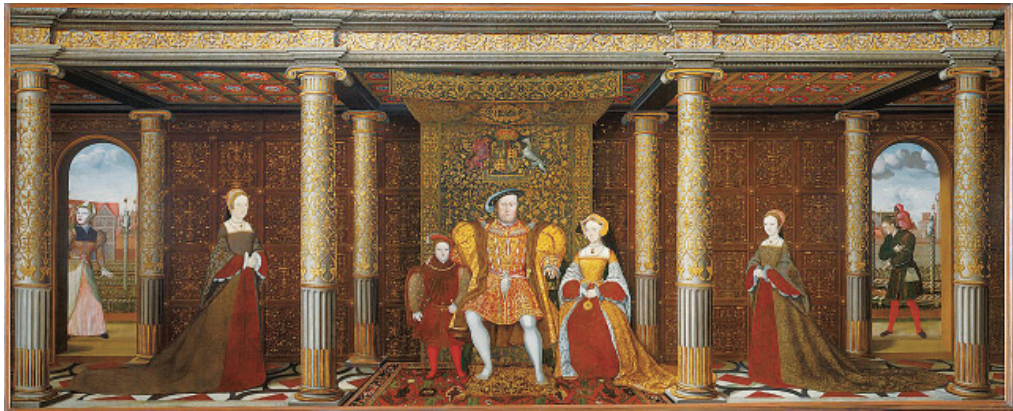
3. 舞台の宮廷道化師を観客はいかに受容したのか

宮廷道化というと、宮廷に囲われた王家のものだけの所有物のように考えられてきた。しかし、Sommers については明らかに知名度が高かったことが、Armin の著書からも読み取れる。

I could describe him [Sommers], as I did the rest;
But in my mind I doe not think it best:
My reason thus, how e're I do descry him,
So many knew him, that I may belye hime.
Therefore to please all people one by one,
I hold it best to let that paynes alone.²⁵⁾

Foole upon Foole で描かれている他の道化師たちについての知名度はそれほど触れられていないが、Sommers については知名度の高さのため、彼について正しく記録できるかどうかの自信が無いという一節が添えられて紹介されている。Sommers についての逸話がいくつか紹介されるが、その中の一つには、Sommers が宮廷から出てグリニッジの公園を散歩している間に、歩道の傍らの踏み台の上で眠ってしまうという話がある。それを見かけた女性が、台から落ちてはいけないと、彼の頭を柱にくくりつけ、クッションを取ってきてあげて、眠っている間見守ってあげていたということが説明される。Armin はこの話の中で、Sommers がどれほどに愛されていたのかを強調しており、他の逸話でも “as you shal after heare.”²⁶⁾ といった挿入句を使いながら、Sommers について語っている。しかし、Armin が *Foole upon Foole* を執筆した時点で、実際には Sommers が死んでから既に45年が経っており、Henry VIII の死からは58年もが経過している。Armin は、Henry VIII、Wolsey 枢機卿と Sommers の三人のやりとりも描いているが、Sommers が宮廷に連れてこられる5年前に Wolsey 枢機卿は亡くなっているという事実から、Armin の描いた Sommers の姿は事実ではなく、あくまで「Armin の知る Sommers」であると考えられる。Sommers の死後、彼の名前や逸話を取り入れた作品、Thomas Nash の *Summers Last Will and Testament* (1592) や、Samuel Rowley の *When You See Me You Know Me* (1604)、*Pleasant History of the Life and Death of Will Sommers* (1676) などが上梓されている。Southworth はこれらの作品が実際の Sommers とは異なる道化像を描いており、歴史書としての価値はないことを指摘している。²⁷⁾ Armin の *Foole upon Foole* もそれらの作品と同様に、作者の想像や脚色を加えられた作品であることは間違いない。しかしながら、Sommers については王室手元金記録や王室衣装係などが、Henry VIII だけではなく Edward VI や Mary I によっても高価な衣装を買い与えられ、祝祭の催し物に参加し

ていたことなどを記録している。彼はイングランド宗教改革の激動の時代、それぞれの君主に気に入られ、宮廷で生き抜いた道化であったことは明らかである。1559年の Elizabeth I の戴冠式の記録には、彼が参列していたことが最後の記録として記されている。²⁸⁾ 前任の宮廷道化師 Sexton の穴を埋める形で宮廷に入った Sommers の衣装を、1535年に初めて王室がオーダーしたという記録から、²⁹⁾ エリザベスの戴冠式までの彼についての記録をたどるだけでも、彼が24年間、王家の祝祭の催しなどで必ず王や女王の傍らにいたということは明らかである。特に Henry VIII の複数の肖像画に描かれた Sommers の肖像画はその存在の大切さと、王との関係の深さを物語っている。Henry VIII の王位継承者を示す有名な肖像画<図3>にも Sommers は描かれている。Henry VIII が中央に座し、唯一の男子継承者 Edward と彼を産んだ三番目の妻 Jane Seymour が真ん中に描かれ、向かって左に Mary、右に Elizabeth が描かれている。右の出口の外には Sommers、左の出口の外には Mary I の女性道化師 Jane が描かれている。Sommers と Jane は Mary 統治下においては、催しなどの際にはペアで出席していたという。³⁰⁾ Henry VIII が最後の遺書を作成し、継承順位を決定づけた1547年ごろに描かれたこの肖像画の柱は、庶子として扱われた二人の娘と王の関係を示しているとも考えられる。そのさらに外側にいる Sommers は、血縁関係は全くないことや、王室ではなく外界とのつながりを示すために建物の外に描かれている。それでいながら、彼は家族の肖像画に描かれているのである。かつてはホワイトホールの謁見室に飾られていたこの肖像画は、Henry VIII にとって特別な意味を持っていたことは間違いない。



<図3> The Family of Henry VIII, 1545 (Hampton Court Palace)

Henry が亡くなる前の数年間に、Sommers は Henry に付き添って宮殿から宮殿へと旅をしていたという記録が渡船業者の記録などに残されている。³¹⁾ Armin も *Foole upon Foole* で次のように Sommers が Henry の悲しみを和らげる役割を担っていたことについて語っている。

Lean he was, hollow eyde, as all report;
And stoop he did too, yet in all the Court
Few men were more belov'd, then was this foole,
Whose merry prate kept with the King much rule.
When he was sad, the King and he would rime,
Thus Will exiled sadness many a time.³²⁾

あくまで聞いた話として Armin は語っているが、晩年の Henry と Sommers が連れ立って旅する姿はおそらく多くの人々の目にもついたのであろうし、王に寄り添う道化の姿は印象的であり、語り継がれることとなったに違いない。

Armin が道化師として活躍した時代には、Sommers はすでに過去の人気宮廷道化師として語り継がれた存在になっていたのであろう。何度も Armin が著書の中で、読者に「ご存じの通り」と断っていることから分かるように、Sommers は、王や宮廷だけではなく、誰からも愛された宮廷道化師として人々に知られた存在だったのである。*Foole upon Foole* の改訂版としてその3年後に Armin が出版した *A Nest of Ninnies* ではタイトルページに “the generous Gentlemen of Oxenford, Cambridge, and the Inne of Court”³³⁾ という語が加えられターゲット読者層を限定している。一方、*Foole upon Foole* は “To the reader”³⁴⁾ という始まり方をしており、明らかに一般読者がターゲットとなっていることが分かる。*Foole upon Foole* が執筆された1600年頃に Armin が持っていた宮廷道化師のイメージや、観客が親しみを持っていた道化のイメージの多くは、Sommers によって形成されていたと考えることができる。Sommers の死後、Elizabeth I にも人形のような小人の女性道化師たちや、女王や William Cecil の不興を買って追放された道化師などは複数いたのは確かであるが、Sommers のように長年に渡り愛された宮廷道化は他にいなかった。

Armin が1599年に宮内大臣一座に入団し演じ始めた宮廷道化師たちを Globe 座で目にした観客たちは、当時語り継がれ、人々から愛された宮廷道化師 Sommers のイメージを舞台上の Armin の姿に重ねたに違いない。Armin は自らの著書の表紙に描かれた肖像画の上に “Written by Robert Armin, servant to the King & most excellent Maiestie.”³⁵⁾ と添えている。Armin 自身も Sommers とは異なる形ではあったが、King's Men に所属し王に仕えた自身の存在を Sommers に重ね合わせていたのかも知れない。Sommers は単に宮廷や貴族に寄生し、一般の民衆社会とは切り離された存在の宮廷道化師ではなく、Henry VIII が亡くなるまで傍で支え、貧困者に施しを与え、時には Henry とともに、時には一人で宮廷の外にも出て行った、愛すべく有名宮廷道化師として Armin や当時の人々に記憶されていたのである。Armin の著書を含めた、Sommers に関する死後の出版物の効果も手伝い、Armin や当時のロンドンの人々の

間で、Sommersは「身近な宮廷道化」として知られていたに違いない。

結び

Globe座がオープンした1599年に Chamberlain's Men に入団した Armin が、舞台上で宮廷道化師たちを演じた時代は、まさに劇場という新しいマーケットの恩恵を受け、経済的にも空間的にも自由になった Tarlton や Kemp、Armin のような道化役者たちが、自立して活躍できる社会が生まれ始めた時代であった。Armin が Sommers の姿を重ねた宮廷道化師をあえて舞台上で演じたのは、彼自身が道化研究者であり、時代と社会の変化の陰で消えゆく宮廷道化師の愛されるべき存在を、著書だけではなく舞台にも残したと考えることができる。*Foole upon Foole* で、Armin は読者に次のようなメッセージを残して作品を締めくくっている。

Wherefore if my pardon may be purchased, then so; if not, the worst is, you will say the Author may keepe his six fooles company. FINIS.³⁶⁾

Armin はその言葉の通り、Sommers をはじめとした実在した道化師たちを“company”として劇団に連れ込むかのように、自身の道化芸や役作りに取り込み、Shakespeare 劇に登場する道化師たちを演じていたのである。

註

- 1) John Southworth, *Fools and Jesters at the English Court* (Gloucestershire: Sutton Publishing Ltd, 2003), p.165.
- 2) David Wiles, *Shakespeare's Clown—Actor and Text in the Elizabethan Playhouse* (Cambridge: Cambridge UP, 1987).
- 3) Andrew Gurr, *The Shakespearean Stage 1574-1642*, 4th ed. (Cambridge: Cambridge UP, 2009).
- 4) *Tarlton's Jestes, and News Out of Purgatory* (London: The Shakespeare Society, 1844).
- 5) Will Sommersの綴りについては印刷物によって異なり、William SomerやWilliam Summersなどと書かれることもあるが、本稿ではArminのFoole Vpon Fooleでの綴りに従い、William Sommersとする。
- 6) Robert Armin, *Foole Vpon Foole or Sixe Sortes of Stottes. A flat foole, a leane foole, a merry foole, and a fatt foole, a cleane foole, a verrie foole. Shewing their liues, humours and behauiours, with their want of wit in their shew of wisdom. Not so strange as true.* (London: Printed for William Ferbrand, dwelling in Popes-head Allie neare the Royall Exchange, 1605), p.9.

- 7) Roberta Mullini, “These sixe parts of folly” : Robert Armin’s Moralising Anatomy of Fools’s Jest. *Theta XI, Theatre Tudor. The Discourses of Folly, Onstage and Off.* R. Hilman ed., (Centre d’Etudes Superieures de la Renaissance, 2014), p. 28.
- 8) Center for Early Modern and Medieval Studies at Sussex University, “The Fool and the Law in Early Modern England.” June 4, 2018.
<https://sussexcemms.wordpress.com/2018/06/04/the-fool-and-the-law-in-early-modern-england/>
- 9) Anthony Fitzherbert, *The New Natua Brevium, of the Most Reverentd Judge Mr. Anthony Fitzherbert*, translated by W. Huges. (London, 1534), pp.583-584.
- 10) Sandra L. Dalhberg, Peter H. Greenfield, “To stirre vp liuing mens minds to the like good’: Robert Armin, John in the Hospital, and the representation of poverty.” *The Free Library*. 2016 Associated University Presses 10 Sep. 2022.
<https://www.thefreelibrary.com/%22To+stirre+vp+liuing+mens+minds+to+the+like+good%22%3a+Robert+Armin%2c+John...-a0465558457>
- 11) Robert Armin, *Foole Vpon Foole*, p. 37.
- 12) Robert Armin, *Foole Vpon Foole*, p.39.
- 13) Robert Armin, *Foole Vpon Foole*, p.37.
- 14) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, illustration より。これ以降の挿絵は本書に拠る。
- 15) William Shakespeare, John Fletcher, *King Henry VIII (All Is True)*, ed. Gordon McMullan, The Arden Shakespeare, third series (London: Methuen Drama, 2000).
- 16) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.171.
- 17) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.96.
- 18) David Wiles, *Shakespeare’s Clown—Actor and Text in the Elizabethan Playhouse*, p.148.
- 19) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.98.
- 20) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.31.
- 21) William Shakespeare, *Twelfth Night or What You Will*, ed. Roger Warren, Stanley Wells (New York: Oxford UP. 1994) これ以降 *Twelfth Night* からの引用はこの版に拠る。
- 22) William Shakespeare, *As You Like It*, ed. Agnes Latham, The Arden Shakespeare, third series (London: Methuen, 1975). これ以降 *As You Like It* からの引用はこの版に拠る。
- 23) William Shakespeare, *King Lear*, ed. R. A. Foakes, The Arden Shakespeare, third series (London: Thomas Nelson and Sons Ltd, 1997).
- 24) H.F. Lippincott, “King Lear and the Fools of Robert Armin” *Shakespeare Quarterly*. Summer 1975, Vol. 26, No. 3 (Summer, 1975), pp.243-253. Oxford UP collaborating with JSTOR.
- 25) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.30.
- 26) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.31.
- 27) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.82.

- 28) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.100.
- 29) Sommersの衣服の注文については John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.92.を参照。
OED の fool sb¹ and a. 2.a.によれば、1532年の用例において Henry VIII の王室元帳に王の宮廷道化師に30シリングが支払われたことが記されている。
- 30) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.99.
- 31) John Southworth, *Fools and Jesters at English Court*, p.97.
- 32) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.30.
- 33) Robert Armin. *The Works of Robert Armin*, ed. Alexander B. Grosart (Manchester: Charles E. Simms, 1880), p.65.
- 34) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.4.
- 35) Robert Armin. *The Works of Robert Armin*, ed. Alexander B. Grosart (Manchester: Charles E. Simms, 1880). *The History of the Two Maids of More-clacke* の表紙より。
- 36) Robert Armin, *Foole upon Foole*, p.42.

(すみざあす・りえ 外国語学部准教授)